

## 沖縄平和行進報告文

日本海地方伏木支部海陸分会 末坂紘基

今回、復刻53年第48回沖縄平和行進に日本海地方代表で参加をさせていただきました。沖縄平和行進への参加は、初めてであり初日に行なわれた全国結団式では、総勢800名以上の参加があり規模の違いに圧巻されました。また対馬丸記念館館長の平良次子さんの「戦争の実相から平和を創る」という題材の基調講演の中で「目から消えていくものは、いずれ心からも消えていく。慰霊碑・戦争の跡地をしっかりと残していくこと。戦後80年経ち、戦争を体験している方が1割と減ってきている中、体験者ではないけれど語り部として後世に途絶えることなく伝えていきたい。」との話を聞き、改めて身が引き締まる思いでした。

2日目には、普天間基地コース（11.7キロ）を平和行進してきました。当日は、快晴で日差しも強い中、出発式の時点で汗が止まらず歩けるのかなと心配でしたが、沿道の住民の方々が声援や手を振ってくれたり、シュプレヒコールが心に響き、歩き切ることができました。行進終了後、県民大会が開催され当日の参加者が総勢1950名と案内があり、その一員で行進できたことが誇らしく思いました。

3日目の戦跡・視察では、平和祈念公園においては、平和の礎の数だけ犠牲者がいる事に感慨深さを感じました。資料館においては、痛ましい写真・戦時中の使用されていたものや風景や状況の再現がされていて衝撃を受けました。次に、ひめゆりの塔を視察し、まず第三外科壕の入口がありこんな場所で治療など行なっていたことに驚きました。そして、視察の中で一番胸に焼き付けられたのは、犠牲になられた方々の鎮魂の場所でした。沖縄戦で亡くなった227名の生徒と教師のひとりひとりの写真と名前が展示されていました。2人の娘がいる身として置き換えて見ている、自分の娘が同じ状況に巻き込まれたらと考えるだけで胸が引き締められ、本当に戦争というのは、人間が人間でなくなり全てを破壊する事だと再認識させられました。

今回この3日間を通して、改めて戦争をおこしてはならないと強く思いました。この沖縄平和行進や各地方で行なっているデモ行進・県民集会在開催できているのは、今が平和であるからできている事だと思っているので今後も積極的に反戦・平和などの集会などに参加していきたいと思えます。そして、組合員に伝えていくことは、当たり前だと思っていますので家族・友人・知人などにもしっかりと反戦・平和を伝えていく小さな代弁者として活動していきたいと思えます。